

Sheaves on subanalytic sites セミナーノート

2022 年 4 月 1 日

目次

0	Preface	1
1	Subanalytic set	1
1.1	Semi-analytic set	1
2	Sheaves on Sites	1
2.1	Definition of Sites	1

0 Preface

このノートでは, R. Prelli, Sheaves on Subanalytic Site [4] を参考にして, Subanalytic sites や, その上の層についてまとめる. また, 必要に応じて, Kashiwara-Schapira[1], [3] を参照する.

1 Subanalytic set

この節では, subanalytic set について述べる.

1.1 Semi-analytic set

2 Sheaves on Sites

この節では, Kashiwara-Schapira, Ind-sheaves [2] も合わせて参照して, 景 (site) 上の層について述べる.

2.1 Definition of Sites

層は, 位相空間 X の開集合の圏 $\text{Op}(X)$ に対して定められる. 景 (site) とは, 任意の圏に対して抽象的な被覆によって位相を入れたもので, これにより, 層の概念を拡張できる.

以降, 考える圏は, \mathcal{U} -small であり, 有限の積とファイバー積が存在するものとする. このような圏 \mathcal{C} では, 射 $V \rightarrow U$ の圏 \mathcal{C}_U も有限の積とファイバー積が存在する.

また, \mathcal{C} が終対象 (terminal object) を持てば,

$$\mathcal{C} \text{ が有限の積とファイバー積を持つ} \iff \mathcal{C} \text{ が有限の射影極限を持つ}$$

が成り立つ. さらに, このとき, 終対象を T として,

$$X \times Y = X \times_T Y \quad (\forall X, Y \in \mathcal{C})$$

である.

記号 射 $V \rightarrow U$ と $S \subset \text{Ob}(\mathcal{C}_U)$ に対して,

$$V \times_U S := \{V \times_U W \rightarrow V \mid W \in S\} \subset \text{Ob}(\mathcal{C}_V)$$

と定める.

注意 位相空間 X とし, $\mathcal{C} = \text{Ob}(X)$ とする. このとき, $V, W \in \mathcal{C}_U$ に対して,

$$V \times_U W = V \cap W$$

である.

定義 2.1.1 $S_1, S_2 \subset \text{Ob}(\mathcal{C}_U)$ に対して, S_1 が S_2 の細分 (refinement) とは, 任意の $V \rightarrow U \in S_1$ に対して, ある $V' \rightarrow U \in S_2$ が存在して, $V \rightarrow V' \rightarrow U$ と分解できることを言う. また, これを $S_1 \preceq S_2$ と書く.

定義 2.1.2 \mathcal{C} 上の Grothendieck 位相とは, $\text{Ob}(\mathcal{C}_U)$ の部分集合の族 $\{\text{Cov}(U)\}_{U \in \mathcal{C}}$ で, 次の公理を満たすものを言う:

(GT1) $\{\text{id}_U : U \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ である.

(GT2) $S_1, S_2 \subset \mathcal{C}_U$ とする. $S_1 \in \text{Cov}(U)$ かつ $S_1 \preceq S_2$ ならば, $S_2 \in \text{Cov}(U)$ である.

(GT3) $S \in \text{Cov}(U)$ ならば, 任意の $V \rightarrow U$ に対して, $V \times_U S \in \text{Cov}(V)$ である.

(GT4) $S_1, S_2 \subset \text{Ob}(\mathcal{C}_U)$ が, $S_1 \in \text{Cov}(U)$ および $V \times_U S_2 \in \text{Cov}(V)$ ($\forall V \in S_1$) を満たせば, $S_2 \in \text{Cov}(U)$ である.

$S \in \text{Cov}(U)$ を U の被覆 (covering) という. 景 X とは, 圏 \mathcal{C}_X で, 有限の積とファイバー積が定義され, Grothendieck 位相が定められているものを言う.

\mathcal{C}_X に終対象が存在する場合は, \mathcal{C}_X を X と書くことにする.

定義 2.1.3 X, Y を景とする.

(i) 関手 $f^t : \mathcal{C}_Y \rightarrow \mathcal{C}_X$ が連続 (continuous) とは, 次の 2 条件が満たされることを言う.

(1) ファイバー積と可換である,

i.e. 任意の射 $V \rightarrow U, W \rightarrow U$ に対して, $f^t(V \times_U W) \xrightarrow{\sim} f^t(V) \times_{f^t(U)} f^t(W)$ である.

(2) 任意の $V \in \mathcal{C}_Y, S \in \text{Cov}(V)$ に対し, $f^t(S) \in \text{Cov}(f^t(V))$ である.

ただし, $f^t(S) := \{f^t(W) \rightarrow f^t(V) \mid W \in S\}$ とする.

(ii) 景の間の射 $f : X \rightarrow Y$ とは, 連続な関手 $f^t : \mathcal{C}_Y \rightarrow \mathcal{C}_X$ である.

例 2.1.4 (i) 位相空間 X に対して, X の開集合に包含射で順序を付けた圏を $\text{Op}(X)$ とする. $U \in \text{Op}(X)$ に対して, $\text{Op}(X)_U = \text{Op}(U)$ である. 通常の被覆で Grothendieck 位相を入れた景を, X と書く (終対象は $X \in \text{Op}(X)$).

(ii) $f : X \rightarrow Y$ を位相空間の間の連続写像とする. 関手 $f^t : \text{Op}(Y) \rightarrow \text{Op}(X)$ を $V \mapsto f^{-1}(V)$ として, 景の間の射も $f : X \rightarrow Y$ と書ける. つまり, 位相空間を景とすると, 連続写像が景の間の関手となる ($f^{-1}(V \cap W) = f^{-1}(V) \cap f^{-1}(W)$).

(iii) X を位相空間とする. $\text{Op}(X)$ には, 次のような位相も入る. $S \subset \text{Op}(U)$ は, U の被覆で, 有限部分被覆を持つとする. このような被覆の集合は, Grothendieck 位相となる. この景を X_f と書く.

(iv) X を局所コンパクトな位相空間とする. X_{lf} を, $\text{Op}(X)$ に次のような位相を入れた景とする: $S \subset \text{Op}(X)$ が X_{lf} での被覆であるとは, X の任意のコンパクト集合 K に対して, ある $S_0 \in S$ で, $K \cap (\cup_{V \in S_0} V) = K \cap U$ となるものが存在する.

このとき, 自然な射 $U_{lf} \rightarrow U_{X_{lf}}$ が存在するが, 一般には同型でない事に注意する.

定義 2.1.5 X を景とする.

(i) F が X 上の k 加群の前層 (presheaf) とは, $\mathcal{C}_X^{\text{op}} \rightarrow \text{Mod}(k)$

参考文献

- [1] Masaki Kashiwara and Pierre Schapira. *Sheaves on manifolds*. No. 292 in Die Grundlehren der mathematischen Wissenschaften. Springer-Verlag, 1990.
- [2] Masaki Kashiwara and Pierre Schapira. *Ind-sheaves*. No. 271 in Astérisque. Société mathématique de France, 2001.
- [3] Masaki Kashiwara and Pierre Schapira. *Category and Sheaves*. No. 332 in Die Grundlehren der mathematischen Wissenschaften. Springer, 2006.
- [4] Luca Prelli. *Sheaves on subanalytic sites*. No. 120 in Rendiconti del Seminario Matematico della Università di Padova. 2008.